

第 1 章

1. 愛であり、知識であり、知恵であり、真理であり、そして(相対的) 完全性である創造の名において。

説明：創造とは何か

創造とは、途方もない中立的エネルギーの進化する本質ザイン(創造の生命) であり、存在者そのものではなく、純粋な自然エネルギー状態としての本質、自然の進化する 霊エネルギー的な作用エネルギーである。本質・創造は純粋に霊エネルギー的なザイン状態(創造の生命の状態)、放射する霊光エネルギーであり、人間、その他の被造物、あるいはその他の人格化された存在者という意味での存在者ではなく、したがってまた超人的形態における神格でもない。存在者とは、インパルスの、本能的あるいは意識的な意識形態における固有の個性と人格を有する自立的に存在する生命形態であり、特異的にすべてのものに向けられた進化の可能性と、肉体的、心理的、意識的、部分意識的、無意識的、インパルスのあるいは本能的な発展形態 (人間、動物、昆虫、植物)を有している。

本質は存在者そのものではなく、非物質的あるいは物質的な存在形態であり、自立的に規定する進化の可能性はないが、これはたとえば創造・宇宙意識、ある種のエネルギー、石、水および気体などにあらかじめある程度与えられることができる。

創造・宇宙意識は自然の霊エネルギー形態として純粋に因果的進化に基づいて存在する 霊エネルギー形態であり、そこから同様に因果的進化の創造・自然の法則と勧告が与えられている。創造・自然の法則と勧告はまたそれらの実在において中立的・肯定的に平衡しており、したがって等しく 100 パーセント肯定的なもの と 100 パーセント否定的なものを含んでおり、それによって初めて進化の可能性が与えられている。この否定的なもの と 肯定的なものが等価であるとは、創造・宇宙意識、ひいてはその自然の法則と勧告が絶対的に中立的・肯定的に平衡しており、したがって否定的なものも肯定的なものも何らかの形で優勢にならないことを意味する。要するに総じてすべての創造・宇宙意識は絶対的に平衡しており、したがってそこにおいては善でも悪でもなく、ただ中立的な平衡のみが存在する。その結果としてすべてのものもそのように存在している。すなわち、いかなる生命形態も同質に存在しもしくは生まれ、その中で善または悪が教え込まれて初めて発達する。これはまさに人間の場合も同じであり、人間は中立的に平衡した状態で生まれ、教育によって初めてそれがなるべきものに発達するのである。創造・宇宙意識はしたがっていかなる形でも中立的・肯定的に平衡している。というのも創造・宇宙意識は 100 パーセント肯定的なもの と 100 パーセント否定的なものをみずからの内に宿すことによって、2 種類のエネルギーの間の絶対的な平衡が生じ、それが平衡の作用につながるからである。すなわち 2 種類のエネルギーとそれらの力があらゆる点で強さが等しければ、一方が他方に勝ることはできず、ただ平衡に至るしかないからである。全体はエネルギー的知識とエネルギー的知恵に対応しており、こ

れらもまた創造そのものの内に与えられている。霊エネルギー形態・創造・宇宙意識はその知識と知恵を絶えず霊エネルギー的に蓄積し続ける。しかもそれは全自然、全宇宙内容、人間およびその他のすべての生命形態の進展する進化の過程と結果をエネルギー的知識とエネルギー的知恵としてみずからの内に受容することによってである。そうすることによって創造は霊エネルギー形態として累積的に成長し、しかもそれは可能な限り最高のエネルギー形態に達するまで続く。この水準に達したら創造はまどろみ、もしくは宇宙は収縮を始め、それから7 x 311兆400億年の時間を経て進化により新しい宇宙もしくは新しい創造・宇宙意識が原創造として形成される。そこには粗大素材性はもはやなく、いまや純粋に霊的な進化エネルギーだけがある。要するに創造・宇宙意識は非常に高い霊エネルギー形態であり、これは個別的な霊エネルギー本質と呼ぶことができるが、しかし存在者そのものではなく、ひとえに非常に高度に発展した因果的に進化する霊エネルギー形態である。霊エネルギー形態はそれ自体が、絶えず累積し続け、しかもそれは因果的進化に基づく法則によって生み出されたすべてのものの進化の成果によるのである。創造・宇宙意識は、それ自身の進化の自然の生産であり、それはまさしく人間とその他すべての生き物 および全宇宙とその中に存在するすべてのものが、創造・自然の法則によって指定された因果的進化形態に対応しているのと同じである。創造・宇宙意識はその自然の進化するエネルギーにおいてすべての物質的なものを高く超えて、ひいては純粋霊エネルギー水準に存在する人間より計り知れないほど高く形成されるので、何らかの方法で人間と 交信することは不可能であろう。因果性と進化に組み入れられた純粋な人格のないエネルギー形態として創造は、単独に存在し、二元的な存在でも三元的な存在でもなく、無限の霊エネルギー的な大きさと力を有する自立した自然の進化する個別エネルギー的形態である。

2. すべての被造物の創造に称讃（名誉、感謝）あれ。
3. 人間は創造のみに生き、われわれは絶えず創造のみに生きる。

説明

人間は創造・宇宙意識の進化する霊エネルギーから/によって/の中で生きており、その結果として人間はそれから微小部分として生まれ出て人間 を生かしている霊体と分かちがたく結ばれている。創造そのものと同じく、創造・人間の 霊体は存在者ではなく、たとえば元素や物体のようにただひとえに個別の本質である。ただし、物体は凝縮した粗大素材物質にほかならないが、その本来の原起源は進化する霊エネルギー形態から生じている。総じて創造・宇宙意識の霊エネルギーと力は、その宇宙に存在するすべてのものの中に極微細形態で現存しており、したがって創造・自然エネルギーに満たされていないようなものは何も存在しないのである。したがってまたすべては創造に生き、絶えず創造のみに生き、人間もまたそうであることを理解しなければならない。なぜなら最後にすべては外的創造と合一して、いつか再びそれと融合するからである。

4. われわれは創造の法則と勧告のみを遵守する。
5. 創造そのものがその法則と勧告によってわれわれを進化の目標に導く。
6. 創造は、真理と愛の小径を歩む者たちや、すでにわれわれの前に真理の道を歩んでおり、不評を被ることもなければ道を踏み外したこともない者たちの道へわれわれを導く。
7. われわれの進化の意志であり目標である創造の名において。